

「言語と情報研究プロジェクト」 第48回公開セミナー

2014年6月27日(金) 16:15～18:15

広島大学総合科学研究科 会場: L 101

演者: 柴谷方良先生 (ライス大学教授・神戸大学名誉教授)
演題: 「準体法とは何か？」

山田孝雄著『日本文法論』(1908年)において初めて文法現象として認められた準体法は、以降その重要性にもかかわらず、徹底した研究が進められてこなかった。本講演では、日本語・韓国語・中国語・ドイツ語・スペイン語その他の言語資料をもとに、準体言(nominalizations)の本質、タイプ、それにそれぞれの構造特性について論じるとともに、準体言の形式面については、準体助詞(標準語「の」)と属格助詞その他との関連性などを史的ならびに通言語的観点から考察する。準体言の用法については、いわゆる連体修飾用法に焦点をあて、とくに関係節について、Keenan-Comrie (1977)のNP-Accessibility Hierarchyも含め根本的な見直しを提言する。

※教員、大学院生、学部生、他大学教員・学生、どなたでも参加自由です(申し込み不要)

広島大学大学院総合科学研究科 21世紀プロジェクト・「言語と情報研究」プロジェクト

(連絡先: 安仁屋宗正 aniya@hiroshima-u.ac.jp)